

# 白子高校 PTA通信

No.100 2024.7 発行 三重県立白子高等学校 PTA

## ご挨拶

PTA会長 佐々木 茂



はじめまして、2024年度 PTA会長を務めさせていただくことになりました佐々木と申します。皆様におかれましては、日頃よりPTA活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、5月11

日の授業公開とその後のPTA総会に多数の方々にご出席いただき、心より感謝申し上げます。

本年度のPTA活動については、学校の先生方や保護者の方々の協力を得て、私を含む14名の役員と常任委員で子どもたちの生活を見守り、高校生活をサポートできるよう努めてまいります。

また、西洋占星術によると、本年度より本格的に風の時代が展開していくとされています。この時代は、自由と多様性、情報とコミュニケーションを重視する時代であり、個々人の独自性や才能が評価され、従来の固定観念や枠組みが崩れ去っていきます。したがって、子どもたちには心から楽しむことや満足感を感じながら、知識や経験、人との繋がりを大切にして高校生活を送っていただきたいと思っております。

最後に、PTA役員と常任委員だけでは対応しきれないことも多々ありますが、白子高校のPTA活動をより良いものとするためにも、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。これにて私の挨拶とさせていただきます。

## 生徒の成長を支え合うPTAであるために

校長 水谷 正樹



PTA会員の皆様方におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。本年四月に校長として着任いたしました水谷正樹と申し

ます。どうぞよろしく願いいたします。無限の可能性を秘めた生徒が集い、百四年の伝統ある白子高校に赴任できたことを嬉しく思っています。

五月にはPTA総会を経て新たな役員の方々をお迎えし、本年度のPTA活動がスタートしました。会員の皆様からは、生徒の成長を学校と共に支えていこ

うという熱い思いを聞かせていただきました。また、同日実施の公開授業においては、授業見学された多くの保護者から、端末を活用した授業や仲間と話し合い楽しく学ぶ様子から「安心した」「このまま頑張りたい」等のお声を沢山いただきました。今後も会員の皆様と教職員が協力し合い、子どもたちの成長を支え、見守っていきたくと考えております。

さて、本年四月に策定された、三重の教育が目指す姿とその実現に向けた取組内容及び目標を示す「三重県教育ビジョン」には、子どもたちに育みたい力として、「自立する力、共生する力、創造する力」の三つが明示されました。

「自立する力」とは、自ら考え判断・決定し、行動する力や自身を律しながら学び続ける姿勢です。

「共生する力」とは、他者への思いやりや規範意識、郷土に対する誇りや愛情等を持ちながら他者と共に支え合って生きていく力です。

「創造する力」とは、社会課題の解決策を生み出したり、新たな価値を創造する力です。

これらの力を育むために様々な施策が打ち出されています。そして、本校では生徒の姿、保護者の願い、地域の期待をベースに、本県の教育ビジョンが示す方向性を鑑み、学校経営方針を作成しています。

目指す学校像として「互いの人権を尊重し心豊かな生徒を育てる」「学力向上と進路実現を図り自立した生徒を育てる」「地域から愛され応援される誇りを持った生徒を育てる」の三本の柱を掲げ、「規則や約束を守る力」「基礎的・専門的な知識」「進路や職業を選択する力」などを育成し伝統の良さを守り続ける「不易の教育」と、「意見を聴き発信する力」「働きかける力」「課題を見つけ解決に取り組む力」「自己の役割を認識し実行する力」など今の経済社会から求められている力を育成する「社会の変化に対応できる教育」の両

面を追い求めています。

（本校が目指す姿や行動計画等の詳細を記述した学校マネジメントシートは、学校ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。）

本校には二学科・三教育課程が設置されており、723名の生徒が学んでいますが、一人ひとり性格や価値観が異なる個性を有しています。高校の三年間は心身ともに著しく成長する時期で、自己理解を深めるとともに、仲間との関わりも大切になります。多様性を尊重し自分とは異なる他者を受け入れることは、互いの絆を深め、人間性を高める事に繋がります。生徒一人ひとりが日頃の授業や課外活動、学校行事、部活動を通じて互いに成長しています。特に、学習面においては全ての学年で実施している「総合的な探究の時間」を通して、自分探しや自身と社会の関係、職業選択などについて個々に正解のない問いと向き合い、悩みながら探究活動を進めています。

また、部活動においては五月末から始まる県総体に挑むにあたり運動部の壮行会を行い、各部から目標と力強い決意表明が全校生徒に伝達され、それを受け激励し送り出しました。大会当日は、今まで仲間と共に積み上げてきたそれぞれの技術やチーム力を試合で発揮してくれました。この挑戦から得た学びを新たな挑戦に向かう原動力にして欲しいと思います。

教職員はこれらの活動を指導・支援することに加え、進路指導や生徒指導、教育相談、人権教育等を通して個々の生徒の社会的職業的自立に向けたサポートにも取り組んでいます。白子高校が、生徒の無限の可能性を引き出せる場であるために、教職員一同、生徒と共に悩み成長していきたくと願っています。

今後とも保護者の皆様の温かいご支援とご協力をお願いいたします。

## 生徒指導の取り組みについて

生徒指導部主任 篠木 旭

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

私は本校に赴任して4年目になります。私の生まれ

住む自宅は白子高校から自動車で10分ほどのところにあります。その縁もあり、私は以前から時々、白子高校の周辺を通りがかることや、来校することがあ

りました。その時に見かける白子高校生は身だしなみも良く、横断歩道を渡るときはかけ足で渡り、止まった自動車に向かい一礼していました。また、校内に足を踏み入れると、立ち止まり分離礼をしてくれ迎え入れてくれました。校内は掃除が行き届いて清潔が保たれており、来訪した私は生徒のマナーの良さや落ち着いた雰囲気強く感心しました。

現在の白子高校でも、以前からの取り組みを踏襲してマナー指導に重点的に取り組んでいます。地域の方々から信頼され、就職や進学に繋げていくためには、何より大切なことの一つであると考えています。

生徒指導部では、①基本的な生活習慣を確立させる②判断力を持ち、自ら考えて行動できる人材を育成する③校則を守り、マナー・モラルを身につけさせる④安心と安全を感じることでできる学校づくりを進めるの4つを柱に指導しています。

制服の着こなし、交通安全のためのルール遵守、携帯電話の利用マナー、挨拶、清掃活動などに重きを置いて指導しています。他の高校との違いからご意見をいただくこともありますが、上記の教育目標を実践していくためにも必要な校則やルールであると考えて指導にあたっています。

この機会に保護者の皆様にお願いがあります。すでに周知のように、改正道路交通法が施行され、2023年4月1日から年齢を問わず、自転車に乗るすべての人にヘルメットの着用が努力義務化されました。法改正をうけて、街角で見かける自転車運転者のヘルメット着用割合が目に見えて向上しました。しかしなが

ら、本校通学生徒のヘルメット着用率は現在7.2%に留まっています。公表されている三重県の自転車運転者全体のヘルメット着用率26.5%を大きく下回っています。自転車に乗ることが多い高校生のヘルメット着用率が低いことは、全国的に大きな課題となっています。

本校の取り組みとしましては、集会でヘルメット着用を呼び掛けるとともに、1年生を対象に自転車運転に関する交通安全教室を5月22日に実施し、その中でも啓発活動を行いました。ご家庭におかれましても今一度ヘルメット着用についてお話いただきまして、ヘルメット着用を勧めていただきますようお願いいたします。

本校では昨年度、自転車での交通事故が12件発生しています。幸い命に係わる事故は避けられたものの骨折・脱臼・裂傷・打撲などの負傷事故となっており中には大惨事と紙一重の事故も発生しています。本校では自転車運転時の安全確認の大切さを今後も指導してまいります。ご家庭でもご指導お願いいたします。

最後に、高校生になると行動範囲や交友関係も広がります。インターネットやスマートフォンの普及により、高校生の周りには有害な情報や危険な誘惑も多くあります。生活のいろいろな場面で、適切な判断力が求められます。目先や自身の損得勘定で判断するのではなく、モラル（倫理・道徳）やマナー（礼儀）にてらして善悪を判断できる人材の育成を目指しています。引き続き本校の教育活動にご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 自らの可能性を広げる高校生活を

### 1 学年主任 赤沼 寛子

平素は本校の教育活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

ここ数年1学年6クラスだった白子高校ですが、今年度の1年生は7クラス280人でのスタートとなりました。入学当初の非日常的な慌ただしさと新しい環境に戸惑いを見せていた生徒たちも、ようやく学校生活に慣れてきたようで、3階ではにぎやかな話し声があちらこちらから聞こえてきます。さらに、授業中のペアワークやグループワーク、休み時間にクラスメイト

と教室移動する様子や放課後の部活動に励む姿からは、高校生としての自覚のようなものも感じられるようになってきました。

1学期が終わろうとしているこの機会に、学校生活の様子をご報告させていただきます。

### 遠足

5月2日、鳥羽水族館と伊勢おかげ横丁に出かけました。オリエンテーリングやフォトコンテストを実施

した中で、班のメンバーと同じ目的に向かって協力する姿が見られました。現地では、すべての班が時間通りに行動することができ、自分を律する行動への意識の高さが垣間見えました。

### 中間考査

5月には中間考査が実施されました。定期考査はこれまでの学びの定着を確認するものです。点数や順位だけに着目するのではなく、自身の学習活動の振り返りの機会にもしてほしいと思います。4月におこなわれた学びの基礎診断では、学年の傾向として家庭学習の時間の短さという課題が見えてきました。他者と比較するのではなく、まずは「自分基準」で学習時間やその質について見直し、自身の向上につなげていくことを期待しています。

### 体育祭

6月5日には体育祭が行われました。晴天にも恵まれ、活気あふれる体育祭となりました。

各競技に真剣に臨む姿、大縄跳びや綱引きで声をかけあって協力する姿、クラスメイトに声援を送る姿、係の仕事を懸命にこなす姿はどれも素晴らしく、生徒たちの底力を見たような気持ちでした。



7月に2年生の科目選択に向けた説明会があり、9月には科目登録をおこないます。卒業後の進路にも関わる、最初の大きな選択となります。本登録後の変更はできないため、夏季休業中ご家族でお話する機会を設けていただくと幸いです。科目選択のみならず、進路実現に向けた選択は今後さまざまな機会でおとずれます。意義ある選択、後悔のない選択をするためには、夏季休業中の過ごし方が重要になってきます。日々の勉強や部活動に励むことはもちろんのこと、さまざまな人との出会いや経験を通して自分自身を成長させること、オープンキャンパス等で情報を仕入れること等にも挑戦してほしいと思います。

学年目標は「人との出会い、主体的な行動を通して自らの可能性を広げる」としました。生徒にとって、失敗することは怖いことだとは思いますが、自分には失敗を乗り越える力があるということ、自分の周りには助けてくれる人がいるということを実感し、自信を持ち、自らの可能性を広げていくために、まずは身近なところから自分自身を成長させる行動をとることを大切にしていってほしいと考えています。

1学年団は、生徒全員が学習面においても、生活面においても、大きく成長し、自立した人間になれるよう、全力でサポートしてまいります。今後とも、保護者の皆様のご理解ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 2024年度 白子高校人権教育の推進に向けて

人権教育推進担当 前川 誠

今年度、本校の人権教育推進係を担当しています。よろしくお願ひ致します。

本校生徒の大半は、遅刻や早退が少ないなど、校則を守り、落ち着いた学校生活を送っています。また、授業やクラブ活動等へ熱心に取り組む姿が見られます。

その一方で、基礎学力の不足や学習意欲が身につけていない生徒も在籍しています。友人関係などに不安を覚え、周囲に自分を合わせようとプレッシャーを感じている生徒や、様々な教育的に不利な環境のもと、将来や進路選択に悩んでいる生徒も見られます。そのた

め、社会人としての生活に必要な学力や、一人ひとりの自尊感情や自己肯定感を高める成功体験、自分の希望する進路を決定できる力をつけるためのキャリア教育の充実が課題となっています。

昨年度、白子高校は三重県教育委員会が実施した『2023（令和5）年度 人権感覚あふれる学校づくり事業』における【教育活動全体を通じた人権教育の研究】の研究指定校となり、一人ひとりの存在や思いが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進する取り組みの実践研究を行いました。研究を受けるにあたり、「生徒自らが考え、将来を生きていく力につながる授業づくり」を行うことを目標としました。

具体的には、「共に学びあう仲間だという実感が持てる集団活動」を基盤とし、「個々の生徒の伸ばしたい力を明確にした授業」の実践によって、人権教育にとって最も重要である「学力の向上」をめざすという取り組みです。この研究では、奈良教育大学の赤沢早人教授に來校いただき、実践研究の公開授業者である本校教諭3名（情報処理・生物基礎・現代の国語の担当者）の公開研究授業後の指導・助言と、教職員による全体協議がメインとなりました。

私は人権教育推進係として、6月と11月の公開研究授業を見学しました。生徒同士のグループ学習やペアワークを重視した授業内容は、とても新鮮で刺激的で

した。生徒にとっては、授業に参加しているという実感及び共に学びあう仲間だという実感が持てる実践となっており、担当の先生方が生徒一人ひとりをととても大切にしているという姿勢が印象的でした。担当の先生方の普段からの生徒との関係性の取り方や、授業における適宜・適切なアプローチは、一人ひとりの自尊感情や自己肯定感を高めるものとなっており、生徒間で意欲向上が相乗効果となって表れていました。また、一斉授業よりも、むしろ着実な「知識の定着」も見られました。

今回の研究では、学校やクラスの中で、自他が大切にされ、それぞれが心地よいと感じる Well-being（ウェルビーイング）な状態が、生徒の人権感覚を高め、学力向上にもつながる契機となること、そのためには、お互いを尊重する意識を育む「仲間づくり」が重要であるということ、などが成果として得られました。

三重県では、人権教育の目的を「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動ができる力を育み、自己実現に向けて未来を切り拓き、人権文化を構築する主体者づくりをめざす」としています。白子高校の人権教育においても、めざすところは同じです。昨年度の実践研究で掲げた目標や研究成果などをふまえ、今年度の人権教育を進めていきたいと考えています。今後ともご理解とご協力をお願い致します。

## 志望の進路実現に向けて

進路指導部主任 久保田 智

今年度の3年生の進路希望状況と3月に卒業いたしました生徒の進路状況をお伝えいたします。

### 【現3年生進路希望状況（2024年5月）】

	男子	女子	合計
四年制大学	33	25	58
短期大学	1	18	19
専門学校	13	45	58
就職・その他	40	44	84

### 【卒業生進路結果（2024年3月卒業）】

	男子	女子	合計
四年制大学	23	28	51
短期大学	0	20	20
専門学校	16	54	70
就職・その他	30	33	63

企業や上級学校の案内、パンフレット等を進路資料室で閲覧できます。連日3年生をはじめ、生徒が情報収集に利用しております。また、令和7年度に向けて、受験や採用の対策についても、各校、各社より情報を頂いております。これからの時期は、上級学校においては、推薦枠の情報が届きますし、就職については、7月1日が企業からの求人票受付開始になります。

1年生は比較的進路について考える時間が十分にあるように思いがちですが、進路実現に向けての準備につながる科目選択があります。将来の就労に向けて、また進学に必要な修得科目もあります。学校での説明を元に考えることになると思われますので、保護者の皆様においては、身近なサポーターとしてアドバイスしていただきますようお願いいたします。

2年生は、学校行事等でも見聞を広げる機会が多く

なります。それらの中で今後活かせるきっかけが見つけられることを想定しています。是非この1年間も有意義に送ってほしいと考えています。

3年生は就職、進学に関わる試験が目前に迫っております。今後のスケジュールを確認していただき、必要に応じて助けてあげてください。

## 相談室から

スクールカウンセラー 市川倫子

スクールカウンセラーの市川です。スクールカウンセラー派遣というのは、全国的に不登校が社会問題化した時期に始まったものですが、近年相談内容は非常に多様化しています。私はスクールカウンセラー歴19年目ですが、「こんな事案が」と驚くような問題が起こってきています。それらは、カウンセラー一人で解決のお手伝いをするというものではなくて、最近よく言われる「チーム学校」でいろいろな専門の方が力を出して、一丸となって取り組むことが必要で、その力の一部になれるよう日々研鑽しております。

この学校の特徴として、不登校の生徒数は全国平均を大きく下回っています。その代わり相談室に多く訪れてくれるのは、まさに青年期ならではの特徴である不安感を抱えた生徒さんたちです。多くの生徒さんは、「中学校までは何も考えていなくて、楽しかったし、何の不安もなかったのに・・・」と言います。それが、「友達にどう思われているのか不安」とか「友達から言われた一言がとても重荷になっている」、「傷つけないし、傷つきたくない」などなど、いろいろな不安が湧いてくるようになるんですね。そうやって相談室を訪問してくれる生徒さんは、私のお願いでもある「相談できる力」を持っているので安心できますが（高いモチベーションをもってきてくれる人がほとんどです）、そうでない人、それがほとんどであろうと思われませんが、時々心を襲ってくる漠然とした不安感を抱えたまま高校生活を送っているのではと思います。少々勇気が必要かもしれませんが、相談室を覗いてくれたらうれしい

限りです。

保護者の皆様の一つお願いしてもよろしいですか。これは私がズーっとお願いし続けていることで、3年前、6年前にもこの内容で原稿で書かせていただいています。それは、子供さんをほめてほしいのです。当時の文章をそのまま使わせていただくと、親御さんにほめてくださいとお願いすると、「でも、ほめることがないんですよ」「どう褒めたらいいのか…」とおっしゃいます。いえいえ、褒めるところはいっぱいあります。例えば、こんなことを言って嘆いている生徒さんがいました。

「数学のテストがあって、クラスで三番だったから夕ご飯の時にそれを言ったら、『一番じゃないんだ』と言われた」

ああ残念。成績が上がってなくても、下がってはいないと考えれば、現状維持であることも十分褒める材料です。「体調がよくなかったのに、よく頑張った」「部活が大変なのに、成績が下がっていないのは、日ごろ頑張っているんだね」いろいろなほめ方のバリエーションがありそうですね。

でも、褒めるってやっぱり難しいです。褒めることが口癖になったら素敵なことですが、しばらくは気を付けていいところ探しをしてみてください。お手伝いをしてくれたら、もうちょっと丁寧にやってほしいと思っても、「ありがとう。助かったわ」と頑張ってみる。そんな小さなことの積み重ねが褒め上手になっていくのだと信じています。どうぞよろしくお願いいたします。

## チャレンジする力を育む生活創造科の学習

生活創造科主任 鈴木 いずみ

今年の桜は入学式に合わせるかのように咲き、1年生を花で迎えることができました。生活創造科という名称になって19年目、心豊かなライフスタイルを創造(クリエイト)する力を身につけることを目標とし、頑張っまいました。2年次からの服飾・食彩の両コースの授業では、県内外の専門学校や地域のプロフェッショナルを招いて調理・製菓・製パン、陶芸・伊勢型紙・テーブルコーディネート・デザイン画・ウォーキングなど、特別講義や講習会の機会を多数設け、衣・食の専門性を追求するよう力を注いでいます。また両コースが目指す、家庭科技術検定1級の取得や、校内外でのファッションショー、各種料理・製菓コンクールに向けてチャレンジしていくところです。

現在、1年生は家庭科技術検定4級取得に向けて、きゅうりの半月切りと基礎縫いに取り組んでいるところです。また、専門の授業の中で、地元鈴鹿を知る事から始め、地産地消の実践、さらにSDGsへとつながる学習をいたします。この学習で得た知識技能が後々、作品や地域交流など実践に活かされることを期

待しております。

2年生は各コースに分かれての授業がスタートし、専門知識と一段高いレベルでの技術を身につけるべく実習に取り組んでいます。3年生服飾コースは、2学期に臨むファッションショーに向けドレス制作と検定取得、食彩コースはコンクールに向けての献立作成や作品検討に取り組んでいます。特に検定については、学校の授業時間内だけでなく、ご家庭において復習や練習などが必須となって参ります。どうか、ご支援と、激励のお声がけをお願いいたします。

これまで生活創造科は、授業や放課後の活動をはじめ、イベントや家庭クラブ活動などにおいて、多くの方々に支えていただいていた歩んで参りました。学習の成果は校内に留めず地域に還元できるよう、発表・披露の機会を設ける予定でございます。私たちは常に感謝の気持ちを忘れず、生徒達が生き生きと活動できる環境づくりに全力を尽くしたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



食彩コース2年生調理実習の様子



服飾コース3年生1級検定練習の様子

## 文化教養（吹奏楽）コースについて

普通科文化教養（吹奏楽）コース主任 齋田 努

文化教養（吹奏楽）コースの主任を担当しています齋田努と申します。本年度も3名体制で運営しています。

長らく文化教養（吹奏楽）コースの入学生の大幅な定員割れが続いてまいりましたが、本年度は39名の新入生が入学しました。また、地元鈴鹿市内の

中学校からの入学生が多かったことが特徴として挙げられます。文化教養（吹奏楽）コースは、県内全域、県外からも入学することは可能ですが、吹奏楽に取り組んでいる地元中学生の憧れの存在として、引き続き、様々な活動に取り組んでいきたいと考えています。また、文化教養（吹奏楽）コースとして

だけでなく、吹奏楽部としても、地元貢献できる  
よう活動を展開していきたいと思ひます。

次に、文化教養（吹奏楽）コースの補完的役割の  
吹奏楽部では、昨年度に引き続き、2つの全国大会  
で上位入賞を果たしました。11月に開催されまし  
た日本管楽合奏コンテスト全国大会では1・2年生  
主体のチームで、15名以下のS部門において最優  
秀賞を受賞しました。3月のジュニア管打楽器コン  
クール全国大会、アンサンブル部門木管の部で木弦  
打八重奏が銀賞（第2位）、金管の部で金管八重奏  
が銅賞（3位）を受賞しました。また、支部大会に  
おいては、東海マーチングコンテストで、三重県勢

として2012年以来の金賞を受賞しました。中部  
日本吹奏楽コンクールでは、小編成で金賞を受賞  
し、個人重奏コンテスト本大会では、金管八重奏が  
金賞を受賞しました。

現在、部活動ガイドラインや教員の働き方改革によ  
り、以前のように演奏活動を行うことは、難しい状況  
になってきています。依頼演奏につきましては、主に  
地元の学校、自治会、公民館を中心に行っております。  
保護者の皆様におかれましては、ご理解の上、ご協力  
いただきますようお願いいたします。

## 令和6年度 三重県高校総合体育大会等結果

### 【女子テニス部】

（団体）1回戦 白子0-3 鈴鹿高専

### 【男子テニス部】

（団体）1回戦 白子0-3 名張

### 【女子ハンドボール部】

1回戦 海星・白子22-28 いなべ総合学園

### 【男子ハンドボール部】

1回戦 白子20-28 伊賀白鳳

### 【女子バスケットボール部】

《中地区予選》

1回戦 白子56-51 高田

2回戦 白子35-84 久居

順位決定戦 白子72-53 鈴鹿高専

5,6位決定戦 白子66-53 名張

《県大会》

1回戦 白子80-72 神戸

2回戦 白子9-220 メリノール女子学院

### 【男子バスケットボール部】

《中地区予選》

1回戦 白子56-54 鈴鹿高専

2回戦 白子56-81 津西

5位決定戦 白子47-74 名張

7位決定戦 白子71-87 稲生

### 【女子バレー部】

1回戦 白子2-0 四日市西

2回戦 白子2-0 尾鷲

3回戦 白子0-2 皇學館

### 【野球部】

《春季東海地区高等学校野球三重県大会 中地区  
予選》

一次予選1回戦 白子・名張7-6 津工業

一次予選2回戦 神村学園伊賀11-0 白子・名張

二次予選2回戦 白子・名張3-1 津

二次代表決定戦 白子・名張5-4 高田

《県大会》※ベスト16

1回戦 白子・名張8-7 桑名西

2回戦 津田学園11-0 白子・名張

### 【剣道部女子】

（団体）3位

1回戦 シード

2回戦 白子 〇-× 海星

3回戦 白子 〇-× 津西

準決勝 白子 ×-〇 三重

→東海総体出場

### 【剣道部男子】

(団体) 5位

- 1回戦 白子 ○-× 皇學館
- 2回戦 白子 ○-× 四日市南
- 3回戦 白子 ×-○ 高田

### 【サッカー部】

- 1回戦 白子・石薬師・大橋学園 1-2 相可

### 【女子卓球部】

(団体) 優勝 →インターハイ・東海総体出場  
29年連続38回目

- (S) 優勝 竹原優梨
- 準優勝 笹村莉央
- 3位 平岡凜花
- 4位 伊藤杏莉  
→インターハイ・東海総体出場

- 5位 富田理名穂
- 7位 西村玲美  
→東海総体出場

- (D) 優勝 竹原優梨・西村玲美  
→インターハイ・東海総体出場
- 3位 伊藤杏莉・平岡凜花  
→東海総体出場



### 【男子卓球部】

(団体) 優勝 →インターハイ・東海総体出場  
5年連続14回目

- (S) 優勝 北村悠貴
- 準優勝 山野煌介
- 3位 大畑瑛祐
- 4位 林誠也  
→インターハイ・東海総体出場
- 7位 吹原大芽  
→東海総体出場

- (D) 優勝 北村悠貴・大畑瑛祐
- 準優勝 山野煌介・林誠也  
→インターハイ・東海総体出場
- 4位 八木良祐・中川博琉  
→東海総体出場



# 東海総合体育大会結果

## 【女子剣道部】

(団体) 予選リーグ 4位 予選敗退

## 【女子卓球部】

(団体) 5位

(S) 9位 平岡凜花  
1回戦敗退 竹原優梨  
1回戦敗退 笹村莉央  
1回戦敗退 伊藤杏莉  
1回戦敗退 富田理名穂  
1回戦敗退 西村玲美

(D) 5位 竹原優梨・西村玲美  
1回戦敗退 伊藤杏莉・平岡凜花

## 【男子卓球部】

(団体) 5位

(S) 5位 大畑瑛祐  
9位 北村悠貴  
9位 山野煌介  
1回戦敗退 林林誠也  
1回戦敗退 吹原大芽

(D) 準優勝 北村悠貴・大畑瑛祐  
1回戦敗退 山野煌介・林誠也  
1回戦敗退 八木良祐・中川博琉